



なかもずイノベーション創出拠点の形成に向けた ロードマップ等

NAKAMOZU イノベーションコア創出コンソーシアム

2022年6月

なかもずエリアの現況と課題

なかもずエリアを取り巻く現況等

【なかもずエリアの位置付け】※上位関連計画

堺市基本計画 2025

- 大学や支援機関、スタートアップ企業などが集積し、ビジネス・学術での交流機会を創出
- 産学官などによる新たな技術やビジネスが生まれるイノベーション創出拠点

堺グランドデザイン 2040

- 産業、研究機関、人が集い、最先端テクノロジーとビジネスを創造する次世代クラスター
- 新たなイノベーションに出会い、つながりを楽しむエリア

堺産業戦略

- 産学連携機能、インキュベーション機能、スタートアップ成長支援機能、情報通信・研究開発機能を有する、イノベーション拠点化

堺環境戦略

- イノベーション拠点（起業家の活躍、活気ある駅前空間、新たなビジネスモデル、堺発の環境技術の確立）

【社会的潮流・情勢】

「イノベーションを取り巻く社会環境が大きく変化」

- 現代は、市場や消費者の多様化するニーズに応えていくことが求められる時代
- 企業等は、これまでにない製品・サービスなどの「価値」を創出・提供することが求められる

「多様な主体の連携による付加価値の創出が不可欠」

- 統合イノベーション戦略など、イノベーション誘発施策が国レベルで進展
- 企業や大学、支援機関、行政、市民など多様な主体連携によるオープンイノベーションの推進が急務

【なかもずエリアの現況】 ※緑字は堺市全体としてのポテンシャルでもある

ポテンシャル①「大学の統合と新たな展開」

- 全国最大規模の公立総合大学の誕生
- 大学シーズを活用した社会課題解決、理系分野の集約、高専の移転
- 海外研究機関（ドイツ人工知能研究センター）の存在



(株) さかい新事業創造センター (S-Cube)



ベンチャー企業等へのオフィス賃貸・事業サポートや新しいビジネス創出のためのプラン作成サポートや講座を行う組織

ポテンシャル②「ビジネス創出機能」と「技術力」

- 中小から大企業まで多種多様な産業集積
- S-Cubeを中心にベンチャー企業が集積
- 産業支援機関の集積
- 近畿大学医学部および病院の開設（泉ヶ丘地域）

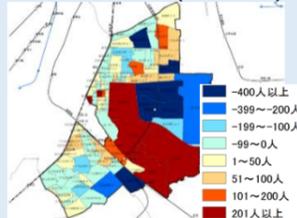
ポテンシャル③「地政学的なポテンシャルの高さ」

- なんば（約 20 分）・梅田（約 35 分）・新大阪（約 40 分）など都心へのアクセスが良好
- ターミナル駅としての集客力の高さ（大阪メトロ、南海電鉄、泉北高速の 3 駅）
- 南大阪地域（人口：約 220 万人超）の重心的なポジショニング
- 関西国際空港（約 60 分）、大阪港など、アジアや世界との距離が近い

ポテンシャル④「（交流）人口の多さとコスト面での競争力」

- ファミリー層の増加に伴う生産年齢人口の増加（H22→R3 年比較）
- 沿線地域における学校教育機関の多さ
- 都心部よりも圧倒的に安い地価（商業及び住宅地）

生産年齢人口増減(H22⇒R3)



ポテンシャル⑤「優れた住環境」

- 交通アクセスを生かした「職住近接」の働き方
- 大阪の大動脈である地下鉄御堂筋線の始発駅が存在
- 和歌山や奈良など豊かな自然空間との近接性

ヒアリング等から得たなかもずエリアの課題

【コア機能形成・イノベーション】

課題① 新産業・イノベーション機能の強化

- なかもずエリアはスタートアップとの相性は良いので、関西以外にも人が集まってくるエリア形成
- グレーターミナミ構想にもあるアジアのベンチャービジネス受け入れる拠点形成

課題③ 大阪公立大学、産業支援機関、行政等の連携強化

- 行政・大学・民間企業間で気軽に意見交換できる場の創出
- 研究内容をわかりやすく見せる工夫が必要
- 大学と産業支援機関との連携強化
- 南大阪地域や他のイノベーション拠点との連携

課題⑤ なかもずエリアのブランディング（認知度向上）

- 「なかもず」の知名度向上
- 「なかもず」の表記統一など一体感の醸成

課題② 地域企業におけるイノベーションの促進

- 地域企業の事業の多角化・第二創業の促進など、地域企業の高度化や高付加価値化の促進
- DX化を進められる人材の確保

課題④ イノベーションを促進する交流機能の強化

- 大学研究者や学生、企業、沿線の中高校生、周辺住民など、多様な主体がなかもずで交流する仕組の構築
- 若い世代からイノベーションを身近に感じられる環境の形成
- 企業や大学のシーズを目利きし、つなげられる人材の確保

課題⑥ イノベーション人材の育成・活用

- 新しいビジネスを生み出す人材の育成（大学や中高生等）
- 地域に埋もれがちな人材（女性やアクティブシニア層等）を活用する仕組の構築

【拠点整備・形成】

課題① なかもず駅前や北部エリア等の賑わい創出

- 多くの乗降客を「通過客」ではなく「滞在者」にすること
- まずは賑わいの創出
- 飲食店、カフェなど人が集まるスポットの創出
- シンボルとなるものが必要

課題③ 開かれた大学による地域利用や交流・連携の促進

- 市民・企業にも敷居を低くし、交流しやすくすること
- 大学内の敷地に、地域との交流やイノベーション創出の拠点となる施設整備
- 学生の視野を広げるために、大学での学びと社会的課題の両方を意識すること

課題④ 金岡エリアの活用

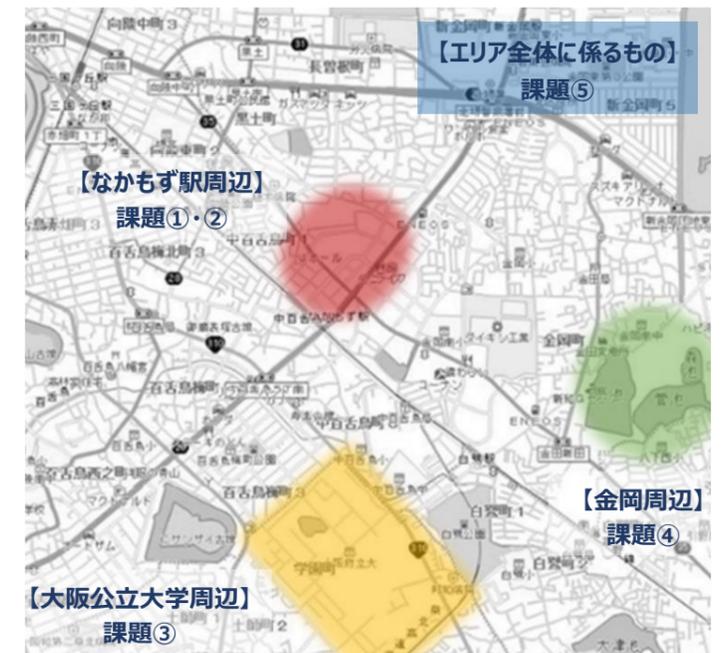
- 都市計画道路の整備を契機とした、保留区域の有効活用
- 大学と連携した企業や研究機関等の誘致

課題⑤（エリア全体に係るもの）

- エリア間の役割分担を行い、人や物、情報等を循環させ相乗効果をもたらすこと
- 周辺人口の多さを活かしてリビングラボなどの設置
- 拠点創出のベースとして、エネルギーや防災に対するレジリエンスの強化

課題② 駅前等におけるオフィスやワーキングスペース等の整備

- 駅前等におけるオフィス需要への対応
- 気軽に利用できるオフィスやフリースペースの設置
- ビジネスに使える会議・商談スペースの設置



なかもずエリアの将来像

【エリアの将来像】

最先端のイノベーションと活力を創出するクリエイティブエリア（堺・南大阪地域の拠点）

「大学の総合知」を活かした産学官連携により
社会・経済の発展に貢献するエリア

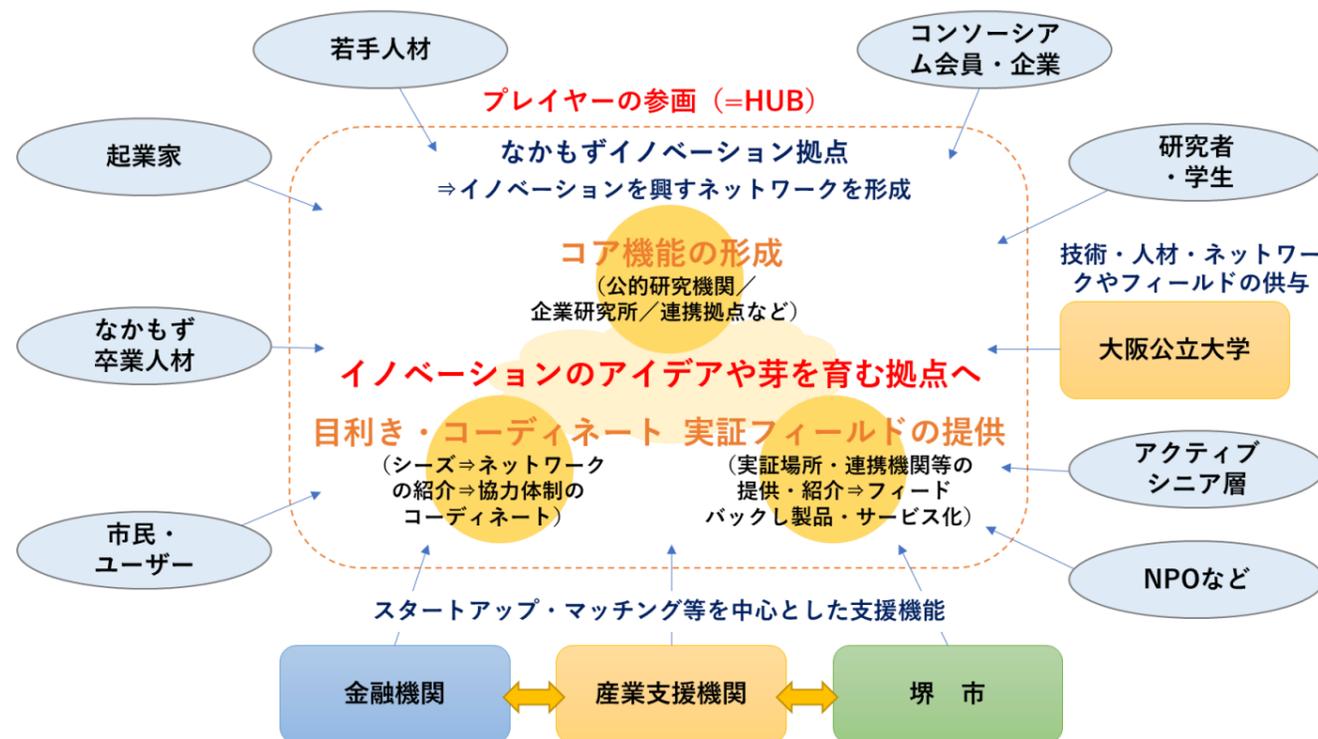
イノベーションの担い手の交流人口を増やし
新事業を創出するエリア

多様な人材とビジネスが集まり、
賑わいと交流が絶えず生まれるエリア

日本のみならず、世界にも発信するイノベーション創出拠点へ

イノベーション・エコシステムの創造

- コア形成、目利き・コーディネート、実証フィールドの提供といった機能を整備することで、周辺に存在する様々な主体をなかもずに呼び込み、イノベーションを興す人材のネットワークを構築する
- こうしたネットワークをベースに、なかもずがイノベーションのアイデアや芽を育み、国際的にも通用する「HUB & SPARK（ハブ アンド スパーク）※」拠点として成長していく

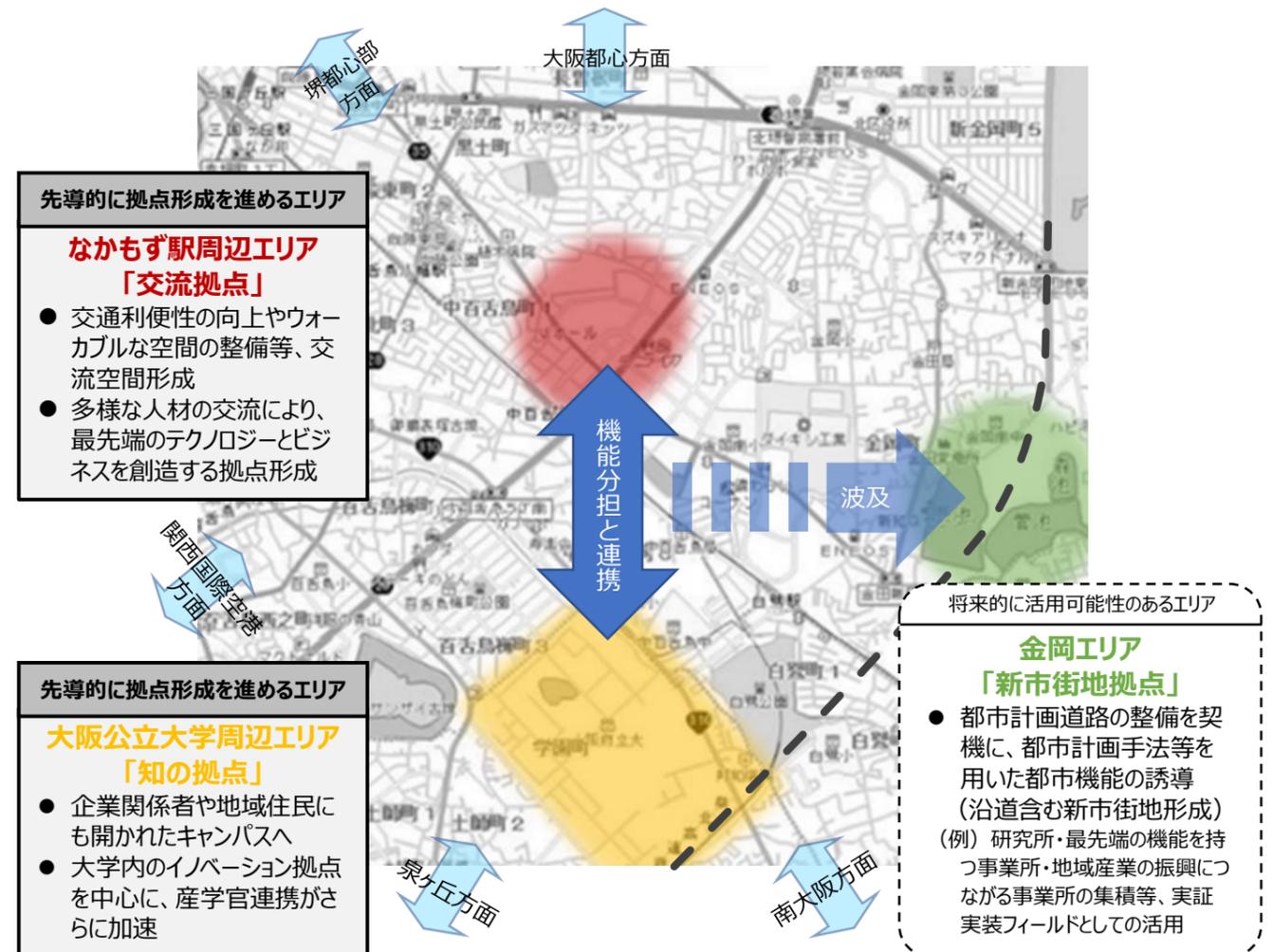


なかもずで生まれたイノベーションの芽を育て、新たなプレイヤーの輩出へ（=SPARK）

※HUB & SPARK（ハブ&スパーク）
ハブ&スポークをもじった造語。なかもずがイノベーションのハブ（HUB）として機能、知が集積し、人材がパーク（留まる:PARK）するとともに、外へスパークする（飛び散る:SPARK）イメージを表現

核となるエリア形成と連携

- 「なかもず駅周辺エリア」、「大阪公立大学周辺エリア」の拠点形成を先導的に取り組む。
- 先導的に取り組む2つの拠点間で、人や情報、知の連携を図り、そのインパクトを将来的に活用可能性のある金岡エリアへと波及させる。



イノベーション創出拠点の形成に向けたロードマップ

短期 (2021~23年)

大学開学
(2022年)

- 新たなイノベーション創出に向けた交流・連携による取組の試行や事業者支援の充実
- イノベーション創出の受け皿となる拠点形成に向けた必要機能や産学官連携による整備スキーム等の検討
- なかもずの知名度向上に向けた継続的な情報発信

大学の分野集約
(2024年~2027年3月頃)

- 拠点整備に合わせ、産学官連携による取組の強化やビジネス化に向けた検討、イノベーション創出を促す環境を構築
- 産学官連携により大学・駅前及び周辺エリアを整備し、交流機能・拠点機能を拡充、交通利便性の向上
- イノベーション創出エリアの更なる発展の核となる金岡エリアの活用に向けた検討

中期 (2024~27年)

大阪・関西万博
(2025年)

駅前拠点開設
南花田鳳西町線完成
高専移転 (予定)
(2027年)

2027年目標

「なかもず駅周辺エリア」
「大阪公立大学周辺エリア」の拠点形成

新たな機能が集積し賑わいや交流のゲートとなる駅周辺、人材・事業創造が行われる大阪公立大学の2拠点の形成と連携によりスタートアップ支援のエントランスの設置。市内外から知恵が集まり、イノベーションが創出される拠点の形成。

エコシステムの確立と運用

産学のプレイヤーが集積。支援機関等の支援や連携体制も充実し、イノベティブな場や試み・チャレンジが連鎖的に発生。

(※2027年以降)
金岡エリアの活用と連携

2つの拠点形成とエコシステムの運用を踏まえ、さらなる機能拡大に向け、活用地として可能性のある金岡エリアへ波及させ、エリア間で連携。

日本のみならず世界にも
発信する拠点へ

イノベーション誘発

大阪公立大学 (中百舌鳥キャンパス) オープン化に向けた取組推進

- 協創の仕組や産学官の連携体制の構築、研究シーズの共有
- 大学内の実証フィールド提供など、企業連携の推進
- 大学と連携したDX人材/イノベーション人材の確保・育成

イノベーション・アカデミー運営による機能強化

- 拠点機能や協創機能の更なる強化

エコシステムネットワークの構築に向けた連携強化

- 関係企業の意向確認、連携スキームの検討、実証試行
- 社会課題に対応した共創事業や担い手との連携強化
- イノベーションを興す芽となる企業や人材の発掘と成長に向けた事業戦略・ファイナンス戦略の磨き上げ

エコシステムネットワークの構築・拡大

- 持続可能なイノベーション創出の環境構築
- 産学連携機能、インキュベーション機能、スタートアップ成長支援機能、情報通信・研究開発機能の立地・誘導

交流拠点機能の検討・試行

- コアとなる機能の検討
- 交流拠点 (ヴァーチャル/リアル) の検討・試行
- 情報系企業の進出支援

事業者支援の充実

- 起業家の育成 (S-Cube 運営、経営・金融支援、座学) / スタートアップの成長支援
- 既存の支援メニュー (DX化支援等)、イベント等の取組の整理、新たな支援内容の検討
- 女性や中高生に対するメニューの検討、実施

継続的な情報発信による「なかもず」の知名度向上やブランディング

- なかもず発事業者等に係る情報発信
- シンポジウムやイベント等の開催、SNSの活用等による継続的な情報発信、機運醸成
- 「大阪グランドデザイン」への位置付け

隣接・広域連携等の推進、他のイノベーション拠点との連携推進等

拠点整備

中百舌鳥キャンパス活用に向けた検討

- 利活用検討、民間活力の導入スキーム、活用条件等の精査

活用に向けた事業化

- 事業の具体化及び整備着手 等

運用開始

中百舌鳥駅前の活用に向けた検討

- 誘導する都市機能の検討、民間活力の導入スキーム、都市計画等活用条件の精査等
- 駅前公共空間を活用した実験的な取組 (滞在空間創出等)
- 調整池や産業支援機関が集積するエリアとの連携や役割分担の検討

活用に向けた事業化

- 民間活力導入による事業の具体化及び整備着手
- ターゲットを想定した都市機能の誘導

運用開始

中百舌鳥調整池等の活用検討

- 調整池や周辺の低・未利用地の活用に向けた方向性、活用条件等の精査等

活用に向けた事業化

- 民間活力導入による事業の具体化及び整備着手

運用開始

金岡エリアの活用に向けた検討

- 都市計画手法を用いた民間保有地の活用推進

2025年

ロードマップに係る取組について（主なプロジェクト紹介と取組例）

大阪公立大学（中百舌鳥キャンパス）オープン化に向けた取組推進イメージ

大阪公立大学が有する研究シーズを市内企業や市外スタートアップ企業が活用・実装するとともに、大学が育んできた人材教育システムと連携し、なかもずエリアで活躍するDX/イノベーション人材の確保・育成に取り組む。

【取組例】※下線部は想定される実施主体

- 協創の仕組や産学官の連携体制の構築、研究シーズの共有
- ・大学：研究者と民間事業者、市民等との交流会等を開催し、共創や連携の仕組を構築
- ・大学：研究シーズ等の対外的な発信強化（HP 拡充等）
- 大学内の実証フィールド提供など、企業連携の推進
- ・大学：実証フィールドとしてキャンパスを活用したい民間企業等を公募し、企業との連携を推進
- 大学と連携したDX人材/イノベーション人材の確保・育成
- ・大学：民間企業からのリカレント人材の受入（※AIやDXなど専門的知見の学習）
- ・民間事業者：大学と連携した民間事業者による寄付講座の実施（※欧米のように）

【参考事例】大学や企業、市民との幅広い共創を実現 ～信州リビングラボ

- 信州大学では、次世代の研究や教育におけるイノベーションを進める上で、リビング・ラボの考え方の有効性に着目し、「信州リビング・ラボ」を設立。
- 大学と企業、市民等が一体となって新しい価値の創出に向けて、「健康長寿」や「防災減災」など、様々なテーマで協働を進めている。



エコシステムネットワークの構築に向けた連携強化イメージ

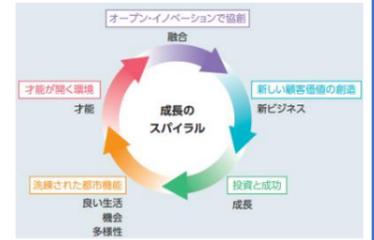
多様な主体（事業者、起業家、研究者、学生、金融機関、支援機関、行政等）の資源（製品・サービス・技術・知識・施策等）のコラボレーションによる社会課題解決の実現など、なかもずエリアでのイノベーションの創出に向け、出会いの場や知識取得・実証機会の提供などのサポート・事業連携を継続的に行う。

【取組例】※下線部は想定される実施主体

- 関係企業の意向確認、連携スキームの検討、実証試行
- ・市、民間事業者：コンソーシアム会員の関心や意向を把握し、相互の連携可能性や実証試行を検討
- ・大学、産業支援機関等、民間事業者：コンソーシアム活動で自身の関心や提供できるリソース等を積極的に開示
- 社会課題に対応した共創事業や担い手との連携強化
- ・市、民間事業者：共感される社会課題・テーマ等に資する新しい技術・サービスの活用による事業創出サポート
- イノベーションを興す芽となる企業や人材の発掘と成長に向けた事業戦略・ファイナンス戦略の磨き上げ
- ・市、産業支援機関等、民間事業者：将来有望な事業者や人材等を継続的に発掘し、サポート

【参考事例】会員の関心に応じたWGの設置と運営～クリエイティブ・シティコンソーシアム（東京）

- 2010年設立。渋谷・二子玉川・自由が丘の3つのエリアで学識経験者、鉄道事業者、行政等が連携し、「国際競争力のある創造的産業育成に果たすべき都市の役割」を検討。
- クリエイティブな企業や人材がそれぞれの強みを持ち寄り、オープンイノベーションで共創する成長のエコシステムの構築をめざしている。
- 定期的な交流とともに、会員の関心や意向に応じ、環境やライフスタイル、情報通信などのWGを立ち上げ、自発的にプロジェクトを運営。



継続的な情報発信による「なかもず」の知名度向上やブランディングイメージ

なかもずエリア内での活動を地域内外に広く発信していくことで、「なかもず＝イノベーション」というイメージづくりに取り組む。

【取組例】※下線部は想定される実施主体

- なかもず発事業者等に係る情報発信
- ・市：なかもずがイノベティブな人材・取組に注目される効果的な情報発信
- ・市、産業支援機関等、民間事業者：なかもずのロゴを名刺・広報物で活用する等、様々な媒体を活用しなかもずの名前を周知
- シンポジウムやイベント等の開催、SNSの活用等による継続的な情報発信、機運醸成
- ・市、産業支援機関等：民間事業者や大学等と連携し、継続的にイベントの開催や活動内容等を発信
- 「大阪グランドデザイン」への位置付け
- ・市：府の計画への位置付けを働きかける

【参考事例】ホームページでの一元的な情報発信 ～よこらぼ（埼玉県横瀬町）～

- 「よこらぼ事業」を展開する埼玉県横瀬町では、まちづくりの実践や実証試験などができるチャレンジのフィールドとしてブランディングを行っている。
- 行政のホームページを充実させ、プロジェクト事例の紹介やまちが抱える課題等を地域内外に幅広く発信し、「まち、まるごとでの社会実験フィールド」というイメージづくりを進めている。



中百舌鳥駅前や調整池等の活用に向けた検討イメージ

駅前や北部エリア（調整池周辺）におけるイノベーション創出、交流・賑わい機能の集積に向け、必要な機能の具体化や官民連携等による整備スキーム、エリア間の役割分担等の検討に向けた調査を行う。

【取組例】※下線部は想定される実施主体

- 駅前に誘導する都市機能の検討、民間活力の導入スキーム、都市計画等活用条件の精査等
- ・市：駅前空間の再編に向けた、コンソーシアム会員や事業者等の意見の把握や事例調査の実施
- 駅前公共空間を活用した実験的な取組（滞在空間創出等）
- ・市、大学、産業支援機関等、民間事業者：各主体と連携し、駅前に必要な機能の検討に向けた実験的な取組等の実施
- 調整池や周辺の低・未利用地の活用に向けた方向性、活用条件等の精査等
- ・市、産業支援機関等、民間事業者：北部エリアの低・未利用地の一体的な活用も視野に入れ、産業支援機関や民間事業者等と連携し、活用条件の精査や活用の具体化に向けた調査の実施
- 駅前と調整池や産業支援機関が集積する北部エリアとの連携や役割分担の検討
- ・市、大学、産業支援機関等、民間事業者：相乗効果を生む、駅前と北部エリアの機能分担や連携のあり方について、コンソーシアム会員や事業者の意見把握や事例調査等の実施

【参考事例】吹田市健都イノベーションパーク利用事業（アライアンス棟整備・運営事業）

- 健都イノベーションパークは、「健康と医療」をキーワードに先端的な研究開発を行う企業等の施設を集積させる場。
- 市所有地で企業や大学の産学連携の窓口を核に、ハード・ソフトの両面において複合的な機能を有する建物（アライアンス棟）の整備・運営を行う事業者を募集。
- リビングラボの実施・連携を通じて、市民との共創によるヘルスケア事業等の実証の機会を創出。



【拠点整備】

【イノベーション誘発】